



ID 070724

手話は、声がなくとも気持ちを伝えられる「心をつなぐ言葉」です。聞こえる人（聴者）も聞こえない人（ろう者）も、手話を通じて伝え合う社会が少しずつ広がっています。

問合 障がい福祉課／Tel.674-7164

手話で広げよう

伝え合う社会へ

法施行で機運高まる

今年の6月に「手話施策推進法」が施行されました。これは、手話を言語として認め、手話を使う人の生活の質を向上させるために制定された法律です。

この法律の制定は、ろう者の権利保障だけでなく、手話を通じた共生社会の実現を目指す重要な一歩。教育、職場、地域など、あらゆる場面で手話が自然に使われる社会づくりが求められています。

ろう者も聴者も

大切にしたい 手話への共通認識

手話はみんなの言語

耳の聞こえに関係なく、誰でも使うことができます。音の代わりに手や指の動きで伝え合うことができ、人と人をつなぐ架け橋になります。



日本語とは異なる言語

日本語とは異なる文法体系を持つ独自の言語です。英語や他の外国語と同様に、手話は「手話そのもの」として理解され、身に付け、使われる言語です。



表現豊かな身体言語

手や表情、体の動きを通じて思いを伝える表現豊かな言語です。その表現には心が込められ、使う人は、多様で奥深い手話言語の文化に触れることができます。



手話の習得支援、手話を知ってもらうきっかけ作りなど、市の取り組みを紹介します。

障がい福祉課
村上敦将さん



手話を身近に感じてほしい

市では令和2年に「高槻市手話言語条例」を施行。下記の取り組みなどで手話の習得支援や普及を進めています。

また、手話の日（9/23）に合わせて、関西大学高槻ミュージックキャンパス西館（右写真）、障がい者福祉センターなどのライトアップを行っています。

「光で語る手話啓発」



手話講習会

手話を学びたい人に向けて、さまざまな講習会を実施。日常生活に必要な基本的な手話を習得することを目指しています（18ページに関連記事）。



手話広報たかつき

手話を勉強したい人向けに本誌「たかつきDAYS」の主な内容を手話で解説しています。市HPで閲覧が可能です。ID 006311



NEW | 手話コラム

全3回

1月号から「手話を簡単に楽しく学ぼう」をコンセプトに連載企画がスタート。市職員が手話を実演するショート動画も公開予定。



手話の学びにFOCUS

若松小学校には手話クラブがあって、13人の児童が楽しく手話を学んでいます。手話の指導をしているろう者の出水田さんに話を聞きました。



ろう者として手話を教える

私はこれまでも若松小学校で手話歌を教えたことがあって、学校とのつながりはありました。「聞こえない子が身近にいないくても、手話を使える子が増



出水田いつ子さん 天野淳子さん

えるのはすてきなこと」と、学校から頼まれた手話クラブの講師を引き受けたのが2年前。年に8回のペースで呼んでもらって、手話を教えています。

楽しく学べるようにゲーム形式も

クラブ活動では、ペアになって手話で会話したり、ゲーム形式を取り入れたり、楽しく学んでもらえるように工夫。みんな表情が明るくて、楽しそうに手話をしている姿を見ると、自分も楽しくてうれしい気持ちになります。

「手話が当たり前」の社会へ

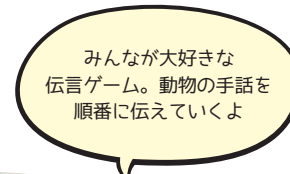
若松小学校の手話クラブのように、耳が聞こえる・聞こえないに関係なく、手話を学ぶ人たちが増

手話を通して、どんな気持ちが生まれた？



中倉杏奈さん
すぐに心が通じて
うれしい気持ちに

クラブ活動では、手話を使った伝言ゲームが一番盛り上がる。遊びながら手話ができて、手話ですぐにみんなと仲良しになれたよ

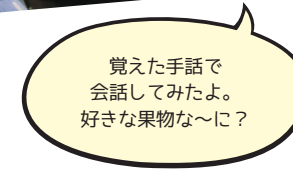


みんなが大好きな
伝言ゲーム。動物の手話を
順番に伝えていくよ



矢部結月さん
緊張はするけど
伝えたい

動物の名前を覚えるのが楽しい。手話をするときは緊張するけど、耳が聞こえない人が困っているときに、手話で伝えてあげたいな

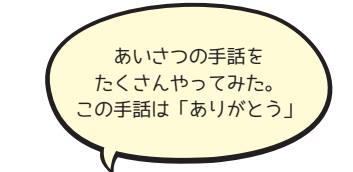


覚えた手話で
会話してみたよ。
好きな果物な～に？



江川すずさん
生活の中でも
手話で話したい

自分の名前の指文字を覚えたとき、手話って楽しいなって。日常生活でも手話を使って、耳が聞こえない人と話せるようになりたい



あいさつの手話を
たくさんやってみた。
この手話は「ありがとう」



えるとうれしいです。自由に手話を学べる環境が整ってきているように思います。

法律でも「手話は言語」だと認められ、テレビ番組などでは、手話通訳者が話者のすぐそばで手話をしている光景もよく見かけるようになりました。手話が当たり前だという社会になってきたと実感しています。

ろう者の社会参加が増えていく

手話を使える聴者が増えると、ろう者と聴者のコミュニケーションがますます活発になります。こうした環境が広がれば、ろう者がいろんな場所に出て、イベントなどの社会活動に参加しやすくなるのではないのでしょうか。

「手話で伝え合う社会」を目指して

子どもたちは手話を覚えて、お互いに教え合っています。廊下で会うと、手話であいさつしてくれます。子どもたちに手話を教えていると「手話で伝え合う社会」の真ん中にいるような気持ちに。この活動は続けていきたいですし、子どもから大人まで手話を学ぶ場所があって、手話があふれる社会になったらいいなと思います。

ろう者と話すときは、完璧じゃなくても「伝えたい」という気持ちがあれば大丈夫。手話ができなくても筆談、身振りなどで十分に会話はできます。手話の楽しさを知る人が増えれば、きっと手話で伝え合う社会が広がっていくと、信じています。

広がる共生コラム① 「触手話」で盲ろう者の伴走をサポート



府盲ろう者通訳・介助者
星野淳子さん

「一人で走っているような感覚」を目指して

視覚と聴覚の両方に障がいを持つ人が、マラソン大会に出場するときに伴走するボランティアをしています。レース中や練習では、手話を手に触れて伝える触手話で会話。危険を知らせることは大事ですが、前に誰もいないから自由に走っていいよ、と伝えて気持ちよく走ってもらうことも大事。ゴールした後、「ありがとう、気持ちよく走れたよ」と言ってもらえるとうれしいです。



触手話は、盲ろう者が話し手の手を上から軽く包み込むように触れながら、動きを読み取って会話します



触手話以外にも、輪にしたロープを使って動きや方向を伝え、息を合わせて走ります

広がる共生コラム② 災害時のろう者のコミュニケーションを支援



聴覚障害者のための
防災ネットワークを考える会
北原美智代さん

つなげる支援 災害時の不安を減らす

防災マニュアルやコミュニケーション支援ボード（写真下）を作成し、ろう者が災害時に孤立しないよう取り組んでいます。

避難訓練、民生委員研修などで活用してもらうため、災害時にろう者が困る場面を解説したDVDを製作。手話のできるボランティアが到着するまでの間も、最低限のコミュニケーションを保つことができる環境が作れるよう取り組んでいます。



災害時はろう者のコミュニケーションを手助けします。ベストを着た同会会員を見かけたら、声をかけてください



イラストや文字が描かれたボードやシートで、指差しや筆談によって意思を伝えます